

令和8年二十歳の集い

総合文化会館

二十歳の主張

渡邊 愛桜

本日は、私たちのためにこのような式典を開催していただき、誠にありがとうございます。市長をはじめ、ご尽力くださった皆様に、成人一同深く御礼申し上げます。

私たちは今日人生の大きな節目を迎えました。これまでの道のりを振り返ると、決して一人の力でここまで来られたわけではありません。どんな時も支えてくれた家族、励ましてくれた友人、そして温かく見守って下さった地域の皆様、先生方に心から感謝いたします。

中でも、一番の感謝を伝えたいのは家族です。嬉しい時も悲しい時も、どんな私でも受け止め、信じて、支えてくれました。時には厳しく叱り、時には優しく寄り添ってくれたその存在が、私たちにとってどれほど大きな支えだったか、あらためて感じています。どんなに離れていても、帰ってくる場所があるということ、それがどれほど幸せなことか今、強く感じています。いつも通りのあたりまえの日常にはたくさんの愛と幸せがあったことに気づくことができました。本当にありがとうございます。

幼いころから、私たちはこの西条の豊かな自然と、温かい人のぬくもりに包まれて育ちました。悩んだ時も、悲しい時も、見上げればこの空がいつもや優しく見守ってくれていました。そして、地域の方々や友人、家族の支えの中で「人を想う心」と「感謝することの大切さ」を学びました。この西条で育ててもらえたことを、心から誇りに思います。

成人になるということは、自由を得ることではなく、責任を持つことだと感じています。これからは、支えられる側から、支える側へ。周りの人に支えられてここまで来たからこそ、今度は私が誰かを支えられるようになりたいです。見返りを求めず、人に優しくできる自分で居続けたい。どんな時も、相手の痛みや喜びに気付ける人でありたいと思います。親や地域の皆様から受け取った愛情を、今度は私たちが次の世代へ繋いで行けるような、そんな大人になりたいと思います。

これから的人生には、きっと壁にぶつかることもあるでしょう。自分で選択したことに対して後悔のない自分でいられるよう、今日この日を胸に刻み「感謝を忘れず、自分らしく」生きていくことを誓い、私の二十歳の主張とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。